

## Jamf Pro を活用した効果的な Mac 従業員選択制(CYOD)の実践

freee 株式会社様

### スモールビジネスを、世界の主役に。

freee 株式会社の展開する「クラウド会計ソフト freee」は、会計をはじめとし人事労務や税務申告などスモールビジネスが抱える課題をサポートしてきました。さらに現在では、会社設立や開業手続きの支援、事業用クレジットカードの発行などスモールビジネスの各成長段階をサポートするサービスにも領域を拡大しています。

自社の事業の進め方に関しても、前例や慣行にとらわれない組織戦略やオペレーション、財務や人事などさまざまな分野において先駆けとなり、未来を作る存在となることを目指しています。

Mac か Windows PC か従業員みずからの意志でコンピュータを選択できる環境を提供しているのは、自分らしく働く環境を大切にする同社ならではの取り組みといえるでしょう。

freee 株式会社

<https://www.freee.co.jp>

### ハイライト



従業員 600 以上  
成長し続けるベンチャー企業



Mac と Windows  
従業員選択制を導入



イメージ展開から  
ゼロタッチ導入へ



OS アップデート管理、  
Apple ID、リモートワイプ



セルフサービスによる  
従業員の利用 App 選択

## ■ 60%以上が自らの意志で Mac を選択

iPhone や iPad といったモバイルデバイスが一般企業へ浸透し、さまざまな用途で活用されている光景は今や珍しいものではなくなりました。「使い慣れたデバイスを仕事でも」という考え方は、仕事の効率化や生産性の向上、従業員のモチベーションや満足度アップの観点からも重要になってきています。そして、こうした流れは、従業員のコンピュータにも及んでいます。オフィスの現場では未だ Windows PC が一般的ですが、ここにきて Mac を選択肢の一つとして従業員に提供する企業が増えつつあります。事務用途に Mac と聞くと、Mac と Windows で異なる操作のサポートや適切な管理経験者の不足などから導入を躊躇している企業も多くあります。しかし、そんなイメージを払拭し、「Mac の管理は決して難しくない」と答えるのが、従業員の多くが Mac を使って業務を行う freee 株式会社（以下、freee）で IT 管理を担当するコーポレートエンジニアの木戸啓太氏です。



freee のコーポレート IT 部門の皆さん

freee の従業員数は現在約 650 名。東京・五反田にある本社以外に札幌、名古屋、大阪、京都、福岡に拠点があり、各拠点で働く従業員にノート PC が貸与されています。いわゆる CYOD（Choose Your Own Device）＝自由選択枝制となっており、60%以上の社員が Mac を選択しているといいます。

freee で IT 管理を担当するコーポレートエンジニアの木戸啓太氏によると、同社では創業当時から多くの従業員が Mac を使って仕事をしてきたと言います。

「私が freee に入社したのは約 3 年前で、ちょうど 100 番目の社員でした。その頃は、ほぼ全員が Mac を使って仕事をしていました。

弊社ではソフトウェアやアプリケーションを開

発するエンジニアが多く在籍するため Mac の利用率が高いのは当然かもしれませんが、法務や人事、営業といった部門でも、Mac を利用する従業員が多くいます。業務が拡大するにつれ、サーバを管理するなどの目的や Windows を使っているお客様がいたことなどから、Windows PC を使わなければならない場面も増えてきて、Mac と Windows PC が混在する環境へと変わっていきました」

## ■ 自由な選択の提供が生産性の向上に貢献

freee では Mac か Windows PC のどちらを選ぶかは従業員各自の判断に任せています。Mac を選ぶ従業員の多くは、単に使い慣れているからという理由で端末を選んでいることが多いと言います。

「私はずっと Windows を使ってきて、freee に入社してから Mac も使うようになりましたが、デバイスとしてどちらが優れているというようなことはあまり感じません。ビジネスで利用するたいのソフトは Mac 版もありま

すし、WEB ベースのサービスならばプラットフォームに依存することはありません。多くの従業員も同じ感覚だと思えます。単に使い慣れているから、かっこいいから、好きだから、前の会社で使っていたからといった理由で Mac を選んでいる人が多いと思いますが、そんな理由であっても、生産性の向上には大きく寄与していると感じています。最近の新入社員の中には Mac しか触ったことがないという人もいますから。もし、どちらかに統一したとしたり、操作方法を学ぶ必要が出てくるなど、従業員の生産性はかなり下がってしまうと思えます」

社内で端末を管理する立場からすれば、Mac、もしくは Windows どちらかの一つのほうが管理上は楽と考えるのが普通です。しかし、木戸氏によると、混在環境という理由で管理に過剰な負担がかかっているわけではないと言います。

「Mac もしくは Windows いずれか一つのほうが、より楽には違いありません。ただ、思ったほど Mac の管理は難しくなかったという印象です。特に今年、Jamf Pro (ジャムフ・プロ) を導入してからは、Mac の管理はとても楽に行えるようになりました」

Jamf Pro とは、Jamf が提供する Apple デバイスの管理ソリューション (MDM: モバイルデバイス管理、または EMM: エンタープライズモバイル管理とも呼ばれる) で、端末の導入やプロビジョニング、資産管理、ソフトウェアやコンテンツの配信、リモートロックやワイプ、セキュリティポリシーの適用といった、組織における端末管理を高度なレベルで実現できるデバイス管理ツール。2002 年の創業以来、Apple デバイスの管理だけに専念し、全世界 1100 万台以上で利用されています。Apple の最新 OS や法人・教育向けのサービスにいち早く対応することなどから、大規模に Apple 製品を導入している一般企業や教育機関で広く採用。特に Mac については、Mac を部分的にサポートするモバイル中心の MDM ツールとは一線を画し、「Jamf Agent」を通じた柔軟できめ細かな管理によりエンタープライズで求められる PC 管理が実現可能な実質的に唯一の商用製品です。

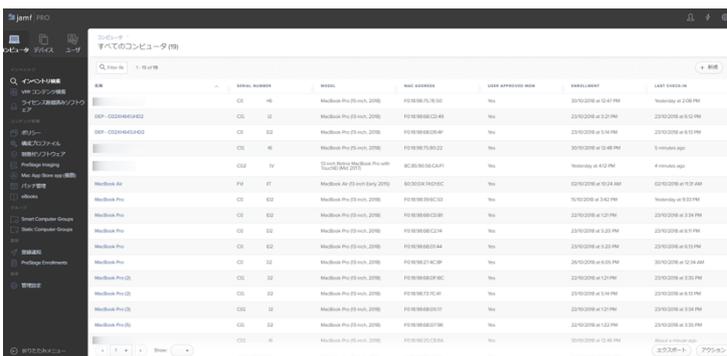
## ■ Jamf Pro が解決した課題

free では、Jamf Pro 導入以前、Mac の管理において何が問題だったのでしょうか。

「新入社員に配付する Mac に関しては、macOS 標準のバックアップ機能である Time Machine を使ってキッティングしていました。会社で利用する基本ソフトや設定等を反映した Mac を 1 台用意して、それを Time Machine を使って HDD にバックアップ。そこから新しい Mac に USB で HDD を接続して Time Machine バックアップを復元する形で、1 台 1 台手動で設定していたのです。当時は新入社員も一度に 20 人前後でしたので大きな手間はかかりませんでした。やはり時間はかかりました。Mac 用の管理ツールは導入しておらず、十分な管理体制とは言えませんでした。一応、端末のログを取るツールは導入していましたが Mac に特化していない Windows 用のものでした。

たので、もう少し Mac に強いものを探していたのです。各端末の詳細なインベントリ情報を取得したり、必要なアプリを一斉にインストールしたりといったことはその時点では行えなかったのです」

当時、木戸氏が特に大きな問題と感じていたのは、「OS のアップデート」と「Apple ID の管理」「リモートワイプ」の 3 つだったと言います。



管理下にある Mac はすべて一覧表示でき、絞り込み検索が可能



「DEPに加え、セルフサービスを使って必要なアプリは従業員にダウンロードしてもらうことで、キittingの工数を大幅に削減でき、効率化できたと思います。従業員にとっても、セルフサービスで基本的なソフトを選び、あとは自由にアプリを購入できるようにしていますので自由度が損なわれたと感じないと思います」



社内 Wi-Fi への接続設定も管理下の Mac に適用

## ■ “理想ドリブン”を支える IT 管理

「Jamf Pro を採点すると何点ですか？」という問いを投げかけてみたところ、「導入前にやりたいと思っていたことはすべて実現できていますので、100点です」と答える木戸氏。現在 freee では、Jamf Pro を使って約 380 台以上の Mac を管理していますが、今後は社員数がどんどん増えても、現在の管理の仕組みで対応できると言います。そのため、Jamf Pro に習熟することは無駄にはならず、将来への投資になるのです。そして、Jamf Pro の一番の魅力は、奥が深いことだと語ります。

「キittingや MDM の部分は、誰でも簡単に行えるでしょう。その一方で、Jamf Pro は機能がとても豊富ですので、知れば知るほど、使い方をもっと勉強したくなります。たとえば、Jamf を使えば、端末の MAC アドレスと従業員名を紐づけて管理することもできます。ネットワーク上で何かトラブルが起きた場合、悪さをしているのがどのデバイスかだけではなく、誰のデバイスかということがすぐにわかります。その人に利用状況を問い合わせることで問題解決までの時間が短くなるのです」

ここまででわかるように、freee が Jamf Pro を導入したのは、Mac の利用を単に「制限」するためではありません。今の時代に求められる最低限の Mac の管理をきっちりと行え、現場の環境に合わせてさまざまなニーズに柔軟に対応できることを重要視し、Jamf Pro を選んだのです。そしてその裏には、IT 管理の部門にまで及ぶ、同社ならではのポリシーがあります。

「私たち freee は、“理想ドリブン”で“アウトプット思考”の会社です。freee にとっては、理想を実現することが何よりも大切なのです。したがって、従業員はアウトプット＝生産性を常に意識して業務を行っています。そうした中で管理部門の私たちが一番大事にしているのは、『業務を止めない』ことです。いくら価格が安いからといって性能の低い PC は利用させない、ソフトを入れても端末が重くならないようにする、Jamf Pro のような新しいツールを入れるうえでもしっかりと検証を行って従業員の生産性を下げない、といったことがもっとも大事だと考えています」

現場の従業員を制限する管理ではなく、従業員の自由度を尊重した“ユーザ指向の管理”の手法。freee の Mac の導入や Jamf Pro の活用方法は、多くの企業にとって参考になる示唆に富んでいます。